

7 相談の実態

(1) 相談の有無

設問11(5)：「されたことがある」と答えた人へ、だれか（どこか）に相談しましたか。あてはまるものにマークしてください。

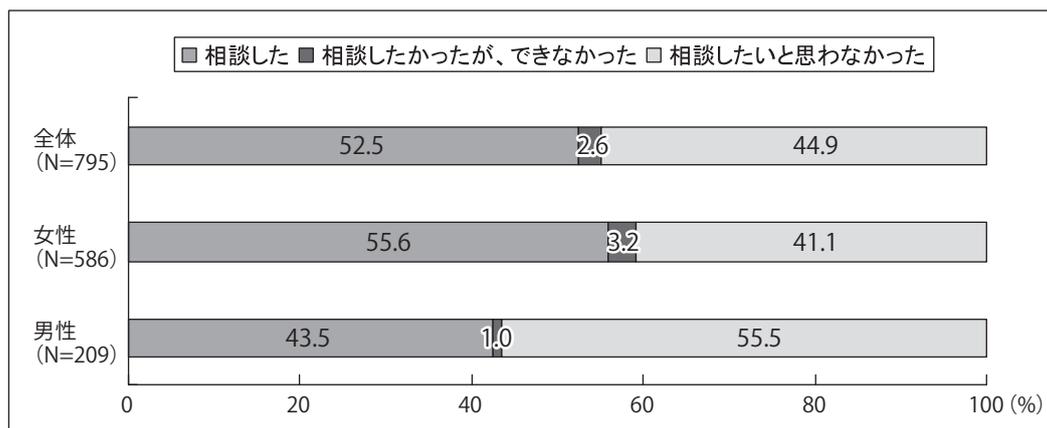
全体でみると52.5%と半数以上の方が相談している状況であった。

男女別でみると、女性は半数以上（55.6%）の方が相談しているが、男性では43.5%と、男女に差がみられた。

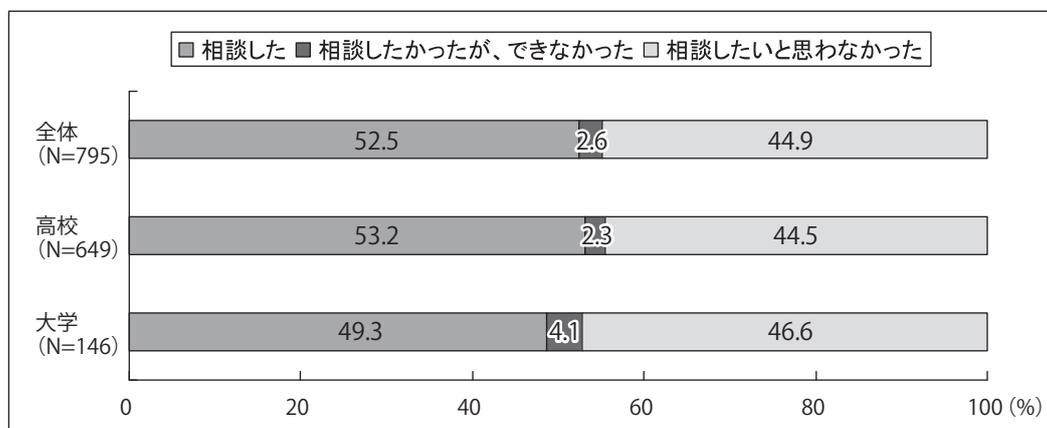
男性では、「相談したいと思わなかった」と回答した人の割合が55.5%と最も高く、女性よりも男性の方が相談につながりにくい傾向がうかがえる。

高校・大学別でみると、「相談した」割合は高校53.2%、大学49.3%であり、高校生の方が相談した割合が高いが、その差はわずかである。

【図表28】（設問11(5)）相談の有無（男女別）



【図表29】（設問11(5)）相談の有無（高校・大学別）



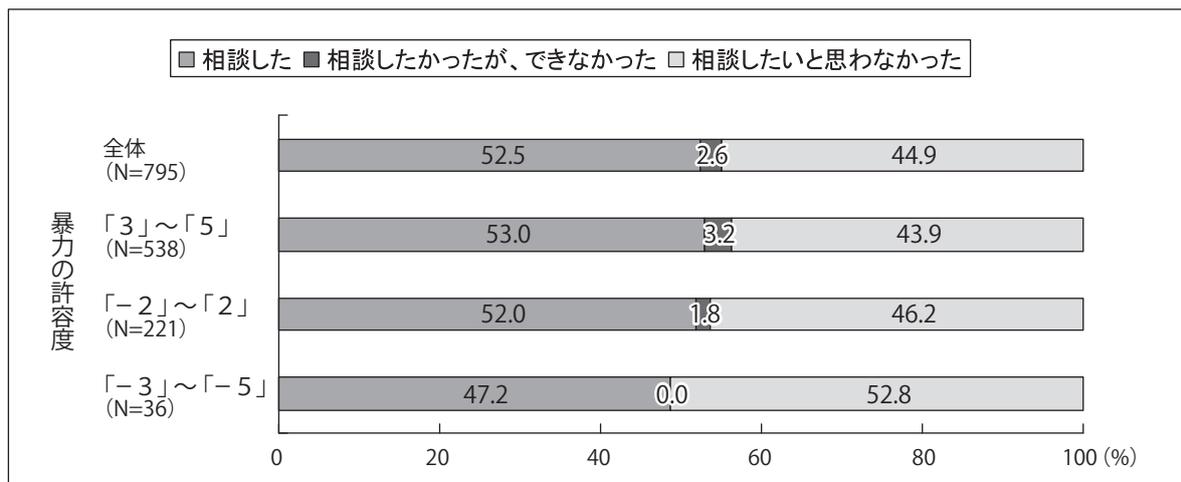
(2) 相談の有無と暴力の許容度

設問11(5)「相談の有無」と設問6「暴力の許容度」をみた。

暴力の許容度が低い（暴力を許さない）集団（図表30「3」～「5」）は「相談した」と回答した割合が高い。また、暴力の許容度が高い（暴力を許す）傾向にある集団（図表30「-3」～「-5」）は「相談したいと思わなかった」という割合が高い結果であった。

暴力の許容度が低い（暴力を許さない）集団は相談につながりやすい傾向がうかがえる。

【図表30】（設問11(5)）相談の有無と（設問6）暴力の許容度の関係



<暴力の許容度>

設問7で「殴ったりけったりすることは何があっても許されない」を5点、他項目を-1点と点数化して合計を算出したものである。最低-5点、最高5点であり、点数が高いほど暴力の許容度が低い（暴力を許さない気持ちが強い）ことを表す。

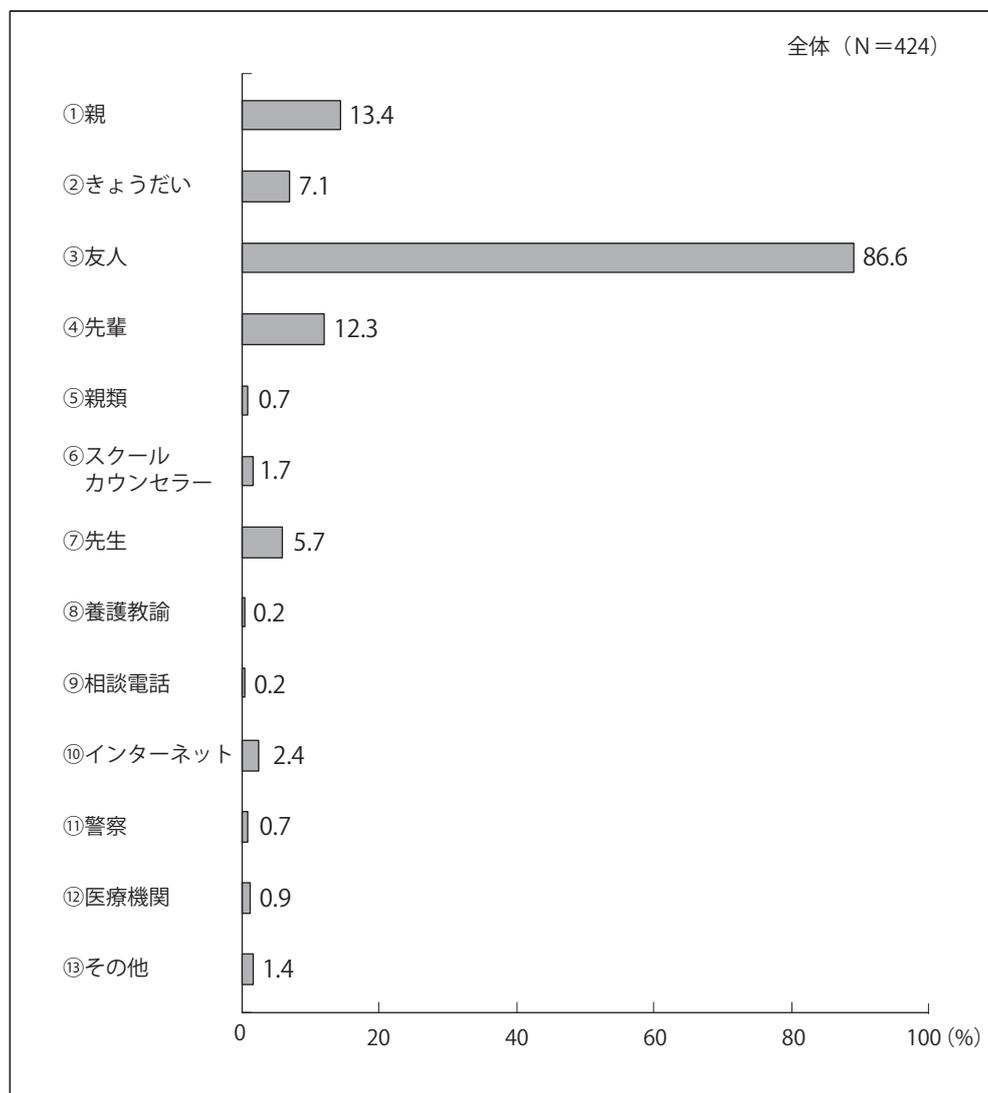
(3) 被害経験後の相談先

設問11(5)で「相談した」と回答した人の中で、「だれ（どこか）に相談をしたか」をたずねた。

全体で見ると、「③友人」(86.6%)の割合が最も高く、身近に安心して相談できる相手として、友人の存在が大きいことがわかった。次に、「①親」(13.4%)、「④先輩」(12.3%)「⑦先生」(5.7%)という結果となった。ここから当事者だけではなく、相談される側もデートDVについての理解と対応を学ぶ必要があると言える。

また、先生や養護教諭、スクールカウンセラーへの相談が少なく、学校における教育相談の体制づくりをすすめる必要があると言える。

【図表31】（設問11(5)）被害経験後の相談先



(4) 相談後の気持ち

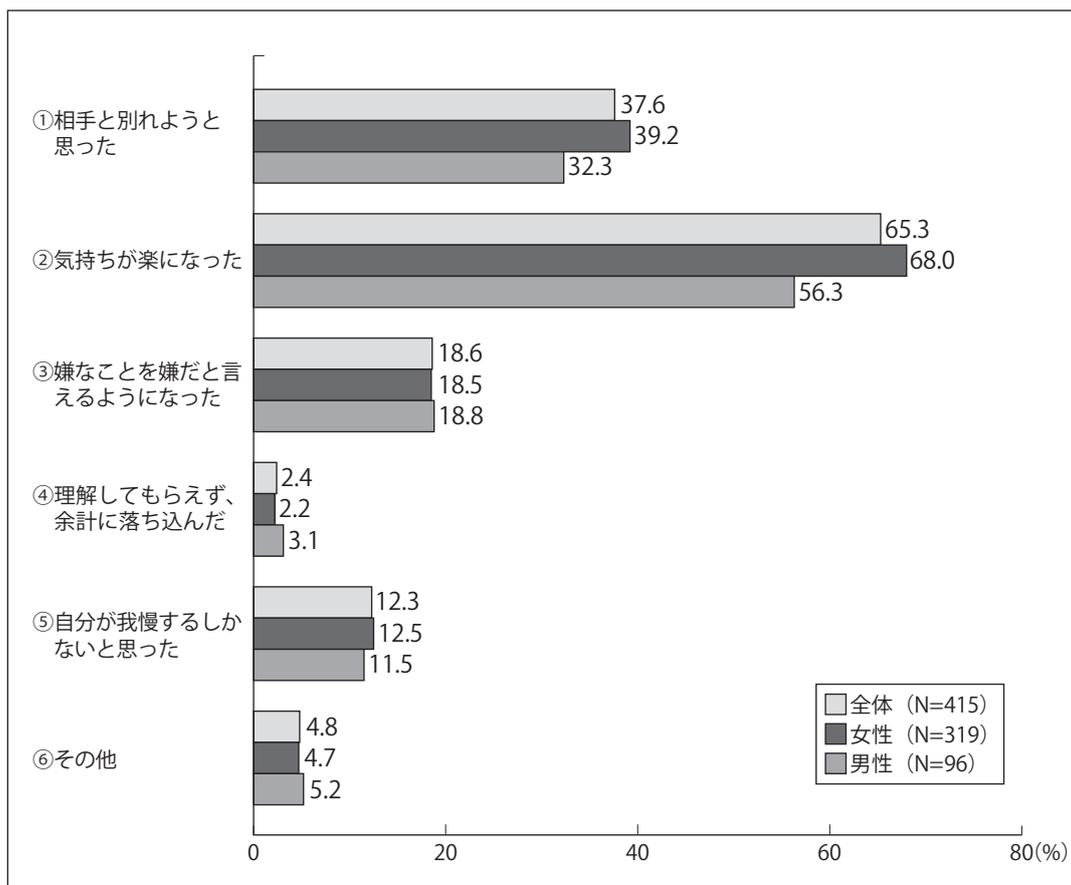
設問11(6)：「されたことがある」と答えた人へ、相談した人は、相談してみてどうなりましたか。あてはまるものにマークしてください。(複数回答可)

全体でみると、「②気持ちが楽になった」(65.3%)の割合が最も高く、次に「①相手と別れようと思った」(37.6%)という割合が高い結果となった。ここから、相談することで気持ちが楽になったり、交際相手との関係を見直すきっかけとなっていることがわかる。

男女別で大きな差がみられたのは「②気持ちが楽になった」(女性68.0%、男性56.3%)であった。次に差が大きい項目は「①相手と別れようと思った」(女性39.2%、男性32.3%)であり、女性の方が相談後に「別れ」を選択するケースが多いことがわかった。

また、男女ともに「⑤自分が我慢するしかないと思った」という回答が1割を超えている。「④理解してもらえず、余計に落ち込んだ」という回答と合わせて、相談したにもかかわらず、解決に向かうきっかけを得られていないケースも無視できない結果となっている。

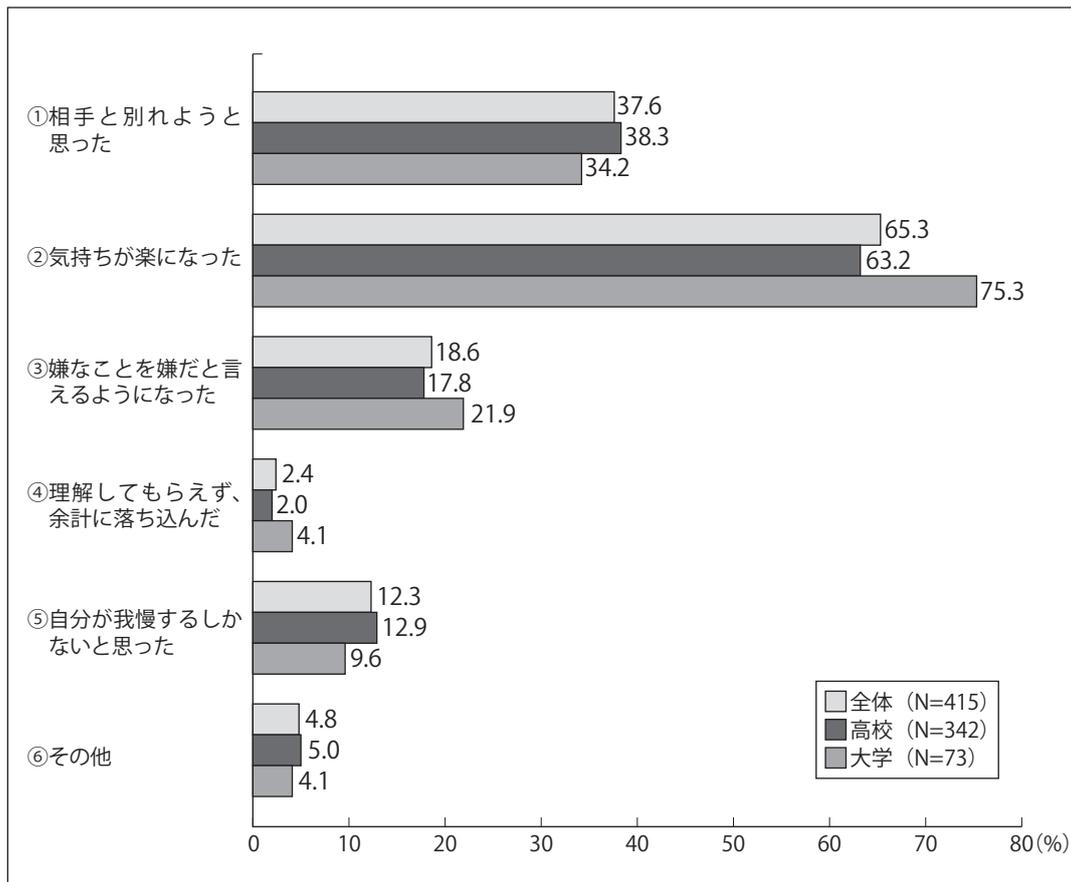
【図表32】(設問11(6)) 相談後の気持ち (男女別)



高校・大学別にみると、大きな差がみられたのは「②気持ちが楽になった」（高校生63.2%、大学生75.3%）で、大学生の方が割合が高い結果となった。

また、「③嫌なことを嫌だと言えるようになった」の項目は、高校生17.8%、大学生21.9%という結果となり、大学生の方が相談したことで暴力を嫌だと言えるようになったことがわかる。

【図表33】（設問11(6)）相談後の気持ち（高校・大学別）



(5) 相談しなかった理由

設問11(7)：相談しなかったと答えた人は、相談しなかった理由として、あてはまるものにマークしてください。(複数回答可)

全体では、「②大したことではないと思ったから」(62.1%)と回答した人の割合が最も高い結果となった。

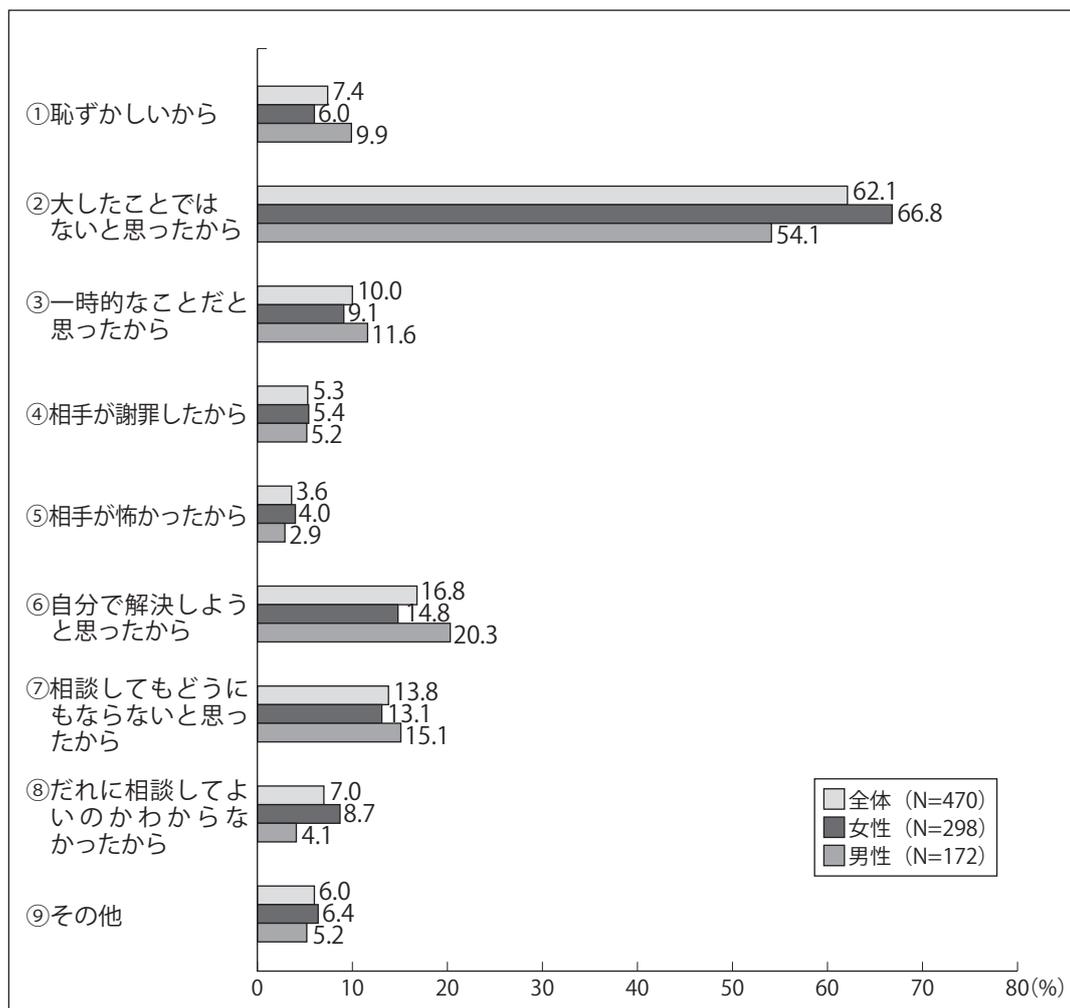
男女別で見ると、「②大したことではないと思ったから」(女性66.8%、男性54.1%)の項目は女性の方が回答した割合が高く、その差も大きい。

女性に比べ男性の回答した割合が高く、その差が大きい項目は、「⑥自分で解決しようと思ったから」(女性14.8%、男性20.3%)、「①恥ずかしいから」(女性6.0%、男性9.9%)である。

この結果は、設問11(5)相談の有無(男女別)と同様に、女性より男性の方が、相談につながりにくく、背景に「男性は弱音をはかないもの」といった「男らしさ」という固定観念に基づく意識が影響していると考えられる。

「⑧だれに相談してよいのかわからなかったから」と回答した割合は全体の1割近くあり、被害者の孤立化を防ぐためにも安心して相談できる環境づくりが必要である。

【図表34】(設問11(7)) 相談しなかった理由(男女別)



8 友人の加害・被害を見聞きした経験

(1) 加害・被害を見聞きした経験

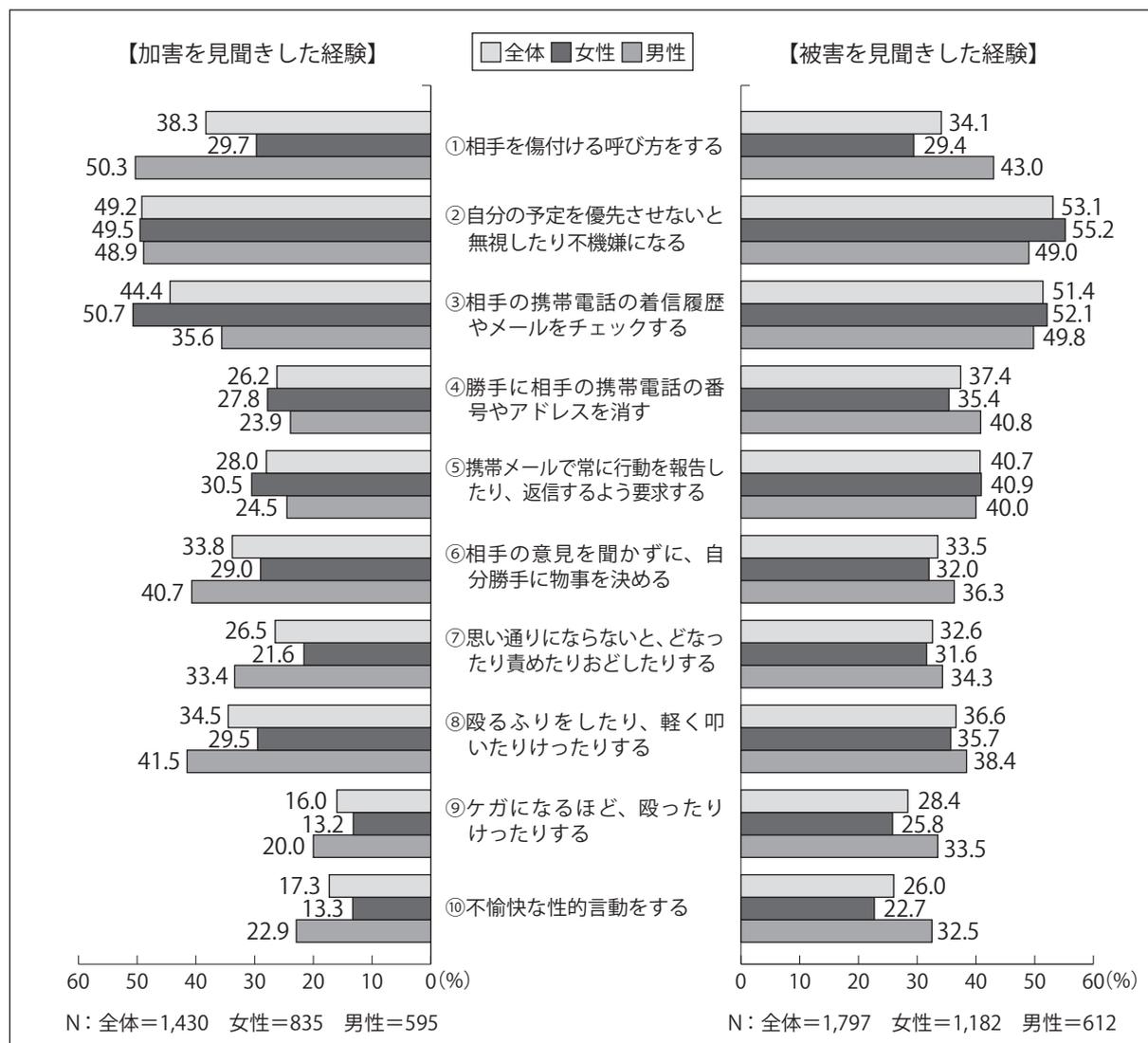
設問12：恋人など交際相手との関係の中で次のような行動を、友人がしたりされたりしているのを、見聞きしたことはありますか。あてはまるものにマークしてください。(複数回答可)

加害・被害ともに見聞きした経験がある人を見ると、全体的な傾向として「②自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」と回答した割合が最も高く、次に「③相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」が高い結果となった。

加害を見聞きした経験がある女性の中では「③相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」(50.7%)の割合が最も高く、男性の中では「①相手を傷付ける呼び方をする」(50.3%)が最も高い。

被害を見聞きした経験がある女性の中では「②自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」(55.2%)が最も高く、男性の中では「③相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」(49.8%)が最も高い結果となった。

【図表35】(設問12) 加害・被害を見聞きした経験



(2) 見聞きした経験後の対応

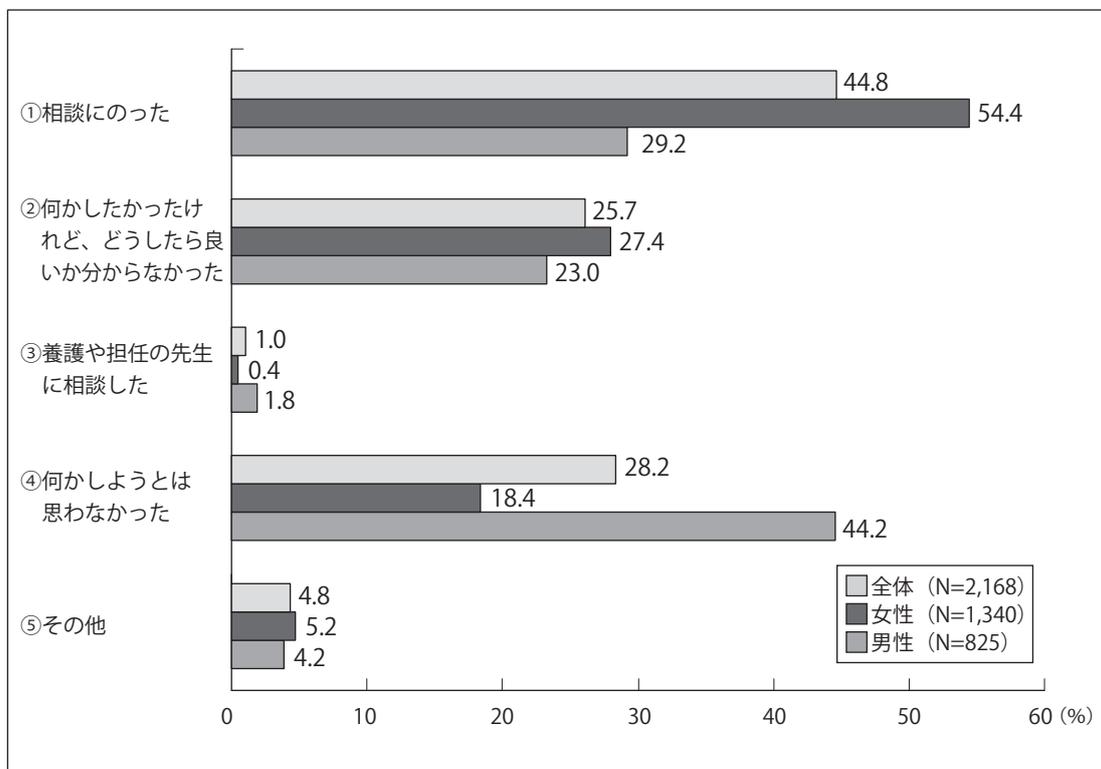
設問13：設問12に一つでも該当する人は、それに対してどうしましたか。(複数回答可)

全体では、「①相談にのった」(44.8%)の割合が最も高い結果となった。

男女別にみると、女性は「①相談にのった」(54.4%)が最も高く、半数を超えており、男性は、「④何かしようとは思わなかった」(44.2%)が最も高い。また、それぞれ男女の差が約2倍あることは注目すべきである。

この結果は、設問11(5)相談の有無(男女別)と同様に、男性は相談につながりにくく、また、他者の相談にのることも少ないことがわかる。

【図表36】(設問13) 見聞きした経験後の対応 (男女別)

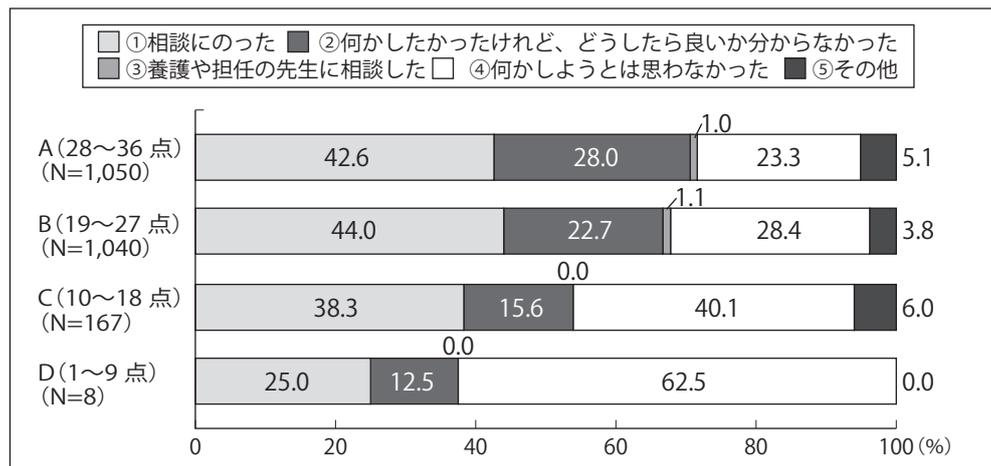


(3) 見聞きした経験後の対応と暴力の感度

設問13「見聞きした経験後の対応」と設問6「暴力の感度」をみた。

全体では、暴力の感度が高いほど、「①相談にのった」「②何かしたかったけれど、どうしたら良いか分からなかった」と回答した割合が高い。また、暴力の感度が低いほど、「④何かしようとは思わなかった」と回答した割合が高く、暴力の感度と見聞きした経験後の対応の関係性がみてとれる。

【図表37】（設問13）見聞きした経験後の対応と（設問6）暴力の感度



<暴力の感度 A・B・C・D>設問6で「暴力とは感じない」を1点、「あまり暴力とは感じない」を2点、「やや暴力と感じる」を3点、「暴力と感じる」を4点とし、各回答者毎に【図表10】の9項目の合計を算出した。最低9点、最高36点であり、点数が高いほど感度が高いことを表す。その感度の高い順にA~Dの4つの集団にわけた。なお、Dには9項目全てに回答しなかった人（1~8点）も含む。

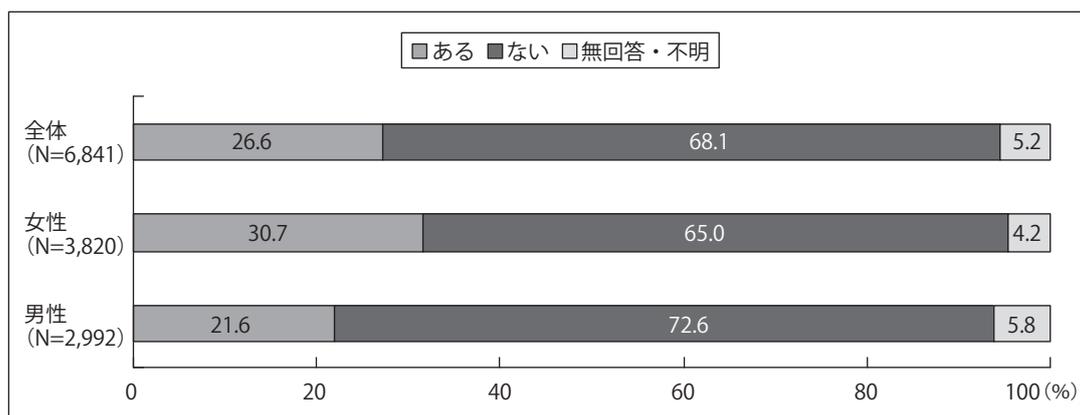
9 デートDVに関する学習の経験

(1) 学習経験の有無

設問14：これまでに「デートDV」について学んだことがありますか。

全体では、学習経験が「ある」と回答した割合は26.6%、「ない」と回答した割合は68.1%と差が大きい。また、男女別では、女性の方が「ある」と回答した人の割合が高い結果となっている。

【図表38】（設問14）学習経験の有無

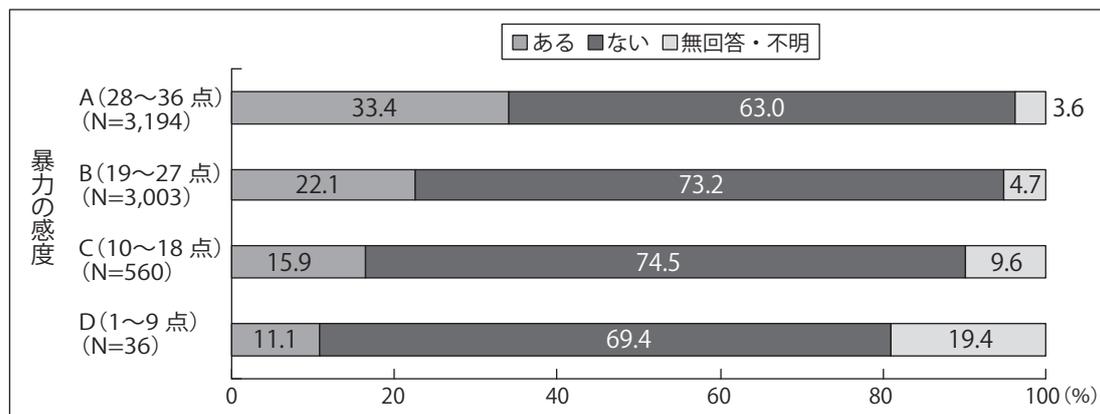


(2) 学習経験の有無と暴力の感度

設問14「デートDVに関する学習経験の有無」と設問6「暴力の感度」をみた。

「学習経験がある」と回答した人の方が、暴力の感度が高い結果となり、学習経験と暴力の感度に関係性があると考えられる。

【図表39】（設問14）学習経験の有無と（設問6）暴力の感度



<暴力の感度 A・B・C・D>設問6で「暴力とは感じない」を1点、「あまり暴力とは感じない」を2点、「やや暴力と感じる」を3点、「暴力と感じる」を4点とし、各回答者毎に【図表10】の9項目の合計を算出した。最低9点、最高36点であり、点数が高いほど感度が高いことを表す。その感度の高い順にA～Dの4つの集団にわけた。なお、Dには9項目全てに回答しなかった人（1～8点）も含む。

10 相談機関の認知度

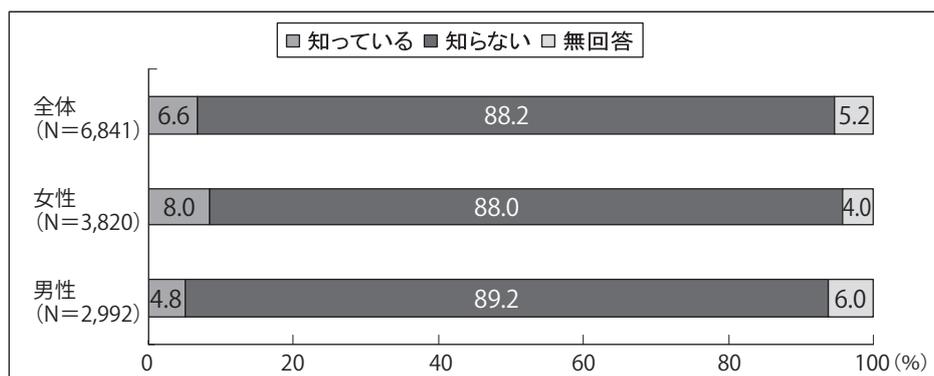
(1) 相談機関の認知度

設問17：「デートDV」などについて専門的に相談できる機関（三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」、三重県女性相談所等）があることを知っていますか。

全体では、「知っている」と回答した割合が6.6%、「知らない」と回答した割合は88.2%という結果となり、認知度の低さが浮き彫りとなった。

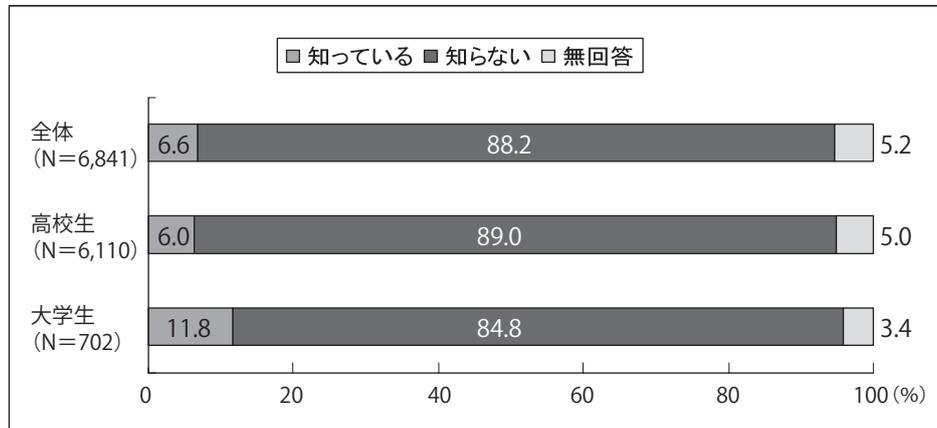
男女別でも、「知っている」と回答した女性は8.0%、男性は4.8%と、ともに低い結果であった。

【図表40】（設問17）相談機関の認知度（男女別）



高校・大学別にみると、大学生の方が高校生よりも「知っている」割合が高いが、それでも1割程度と低く、相談機関の周知が必要と言える。

【図表41】（設問17）相談機関の認知度（高校・大学別）



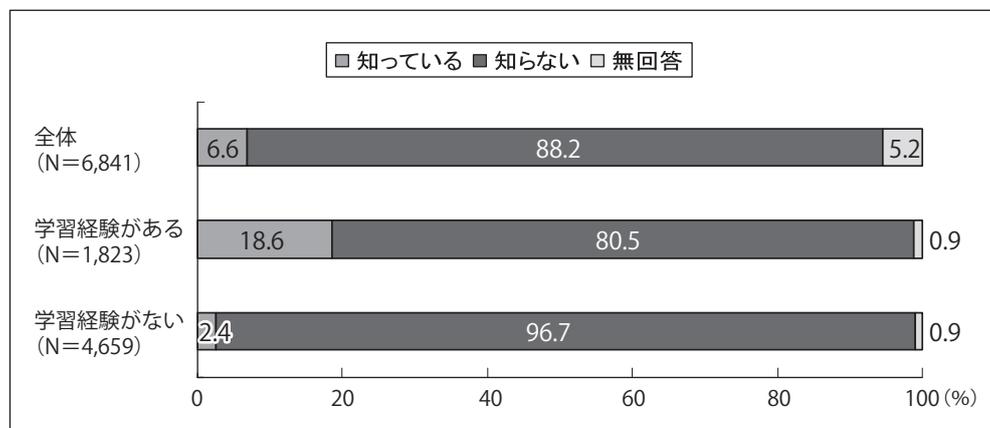
(2) 相談機関の認知度とデートDVに関する学習経験

設問17「相談機関の認知度」と設問14「学習経験の有無」をみた。

学習経験がある人の中で「知っている」と回答した割合は18.6%となり、経験がない人の中で「知っている」割合は、2.4%と、約8倍の差がみられた。

学習経験が相談機関の認知につながると考えられるが、学習経験がある人の中でも8割の人が、「知らない」と答えていることは課題である。このことから、相談機関の周知にさらなる工夫が必要であると言える。

【図表42】（設問17）相談機関の認知度と（設問14）学習経験の有無



11 自由記述

設問15ではデートDVについて思うことなど自由に記述をしてもらった。1,235人から記述があり、全体の18%から回答を得た。この中から意見を抜粋して掲載する。

【複数の回答があったもの】

・相手を傷つけることは絶対にダメだと思う。
・怖い、ひどいことだと思う。
・なぜ暴力をふるうのか分からない。
・デートDVという言葉は初めて聞いたので、分からない。あまり知らない。
・周りの人が気づいたら相談にのったり、なにか行動すべきだと思う。

【その他自由記述】

・肉体的でも精神的でも傷付けられたら、それはなかなか治ることはないと思う。絶対によくない。
・人を束縛したりするのはダメだと思う。好きでも自由にさせてあげるのも愛情だと思う。
・お互いを尊重する関係をつくるべきだと思う。
・デートDVって男がしがちってイメージあるけど女の子も気をつけなきゃだめだと思う。
・あまり強い束縛はいやだけど、放置されるよりはいい。やきもちぐらいなら別にいい。
・度が過ぎた束縛ややきもちはだめだと思うが、軽度のものなら相手を安心させるのにいいと思う。それを求めている人だっている。デートDVが全てだめという考えは古いと思う。
・愛があれば大丈夫。
・気にしなくても大丈夫だ。本当に悩んでいる人は誰かに相談するだろう。
・恋人どうしの関係だから、恋人どうしで解決すればいいと思う。
・殴る男と付き合い女が悪い。好きだからとかで許す女がわるい。
・愛情なのか、自分勝手なのか分からないからもっと怖い。される方もする方も抜け出せなくなるのが怖い。
・怖い。どんどんエスカレートしていくと思う。
・男性からしてみれば何も感じないのかもしれないけど、女性からしてみるとかなりの恐怖だと思う。
・自分がされた時、すごく怖いと思う。相談もできないような気がする。
・自分の周りにも彼氏からDVされる子がおったから、すごく止めたし、別れた方がいいと言うたけど彼女は好きやからって言うて聞かへんだ。デートDVってそういうとこ難しいと思った。
・デートDVはされても好きだからゆるすとかは前までは自分も、そうやったからあんまり言えへんけどほんまにDVをされた時点でお互い別れた方が絶対にいいと思う。相手につくしてしまうから。
・すごく怖いと思った。私耐えれん。「なんで付き合ってるん？」ってきいたら「すきやから」って言った。
・愛し方が間違ってしまうとデートDVになってしまうことがあると思う。勇気をもって周りの人に相談することが必要。
・自分ではDVされていると自覚していない人がいると思うので、気付く機会を設ける事が大切だと思う。
・されている側の訴えがなければ無くすのはむずかしい問題だと思う。された時の対応法を少しでも多くの人に教えてほしい。
・男が権力を持っていた時代があったからこんなことがおきたのかな～と思った。早くその時代背景が消えたらいいなと思う。
・デートDVじゃなく、母が父になぐられているのを見たことがある。母は父ともう離婚したけれど怖かった。
・学んだことや聞いたことないので機会があれば学びたいです。
・どこからが暴力で、どこが普通のことなのか、よく分からない。暴力と束縛の違いが分からない。
・もし、私の恋人に殴られたりしたら、私は恋人をどう思うのかが分かりません。
・女性が過度に相手を制限してしまう気持ちは何となく分かる気がする。自覚がなく、相手にはなれられるのが嫌だから制限してしまうのだろうと思う。自分も似たようなことがあったから。
・行政が何かしらのアクションをすべき。(法改正や刑罰化、加害者の矯正など)
・保健の教科書に載せればいいと思う。